

人工股関節全置換術後患者における入院中の日常生活動作獲得日数調査

○中村 博¹⁾, 松山 直樹¹⁾

1) 鳥取県立中央病院 リハビリテーション室

Keywords: 人工股関節全置換術, 日常生活動作, 作業療法介入

【序論】

人工股関節全置換術 (total hip arthroplasty :THA) は有痛性股関節疾患における有効な治療法の一つである。術後は早期の在宅復帰が望まれるが、それには日常生活動作の獲得が重要となる。先行研究では THA 後の日常生活動作についての報告は散見されるが、主に長期的な検討をしたものが多く、入院中の日常生活動作自立日数に焦点を当てた報告は渉猟する限りない。円滑な退院支援と早期社会復帰後の安心した生活を送る上で、入院中における日常生活動作の獲得時期を明らかにすることは重要である。本研究の目的は、作業療法が人工股関節全置換術後患者の日常生活動作早期自立に有効な可能性があることを示し、日常生活動作における平均的な自立日数を報告することである。

【対象と方法】

対象は 2023 年 1 月～2024 年 1 月に当院で人工股関節全置換術を施行された症例 31 名を対象とした (年齢 69 ± 11.3 歳, 身長 158.6 ± 11.5 cm, 体重 59.4 ± 13.2 kg, 男性 11 名, 女性 20 名)。日常生活動作の達成日数は、トイレ、食事、整容、更衣、シャワー、靴下、家事とし、担当作業療法士 (以下 OT) が自立と判断した術後日数を評価した。評価項目は当院独自の日常生活動作自立度チェックシート (以下シート) を作成し、評価方法については OT 間で統一した。シートには、術後リハビリテーションスケジュール、日常生活動作訓練のステップも含まれている。このシートは OT が内容を確認し、患者にも配布することで、お互いに ADL 状況を把握できるようにした。

【結果】

食事や整容に関しては術後 1.5 日以内にほとんどの患者が自立し、トイレの自立には 2.5 ± 1.7 日、下衣更衣の自立には 4.9 ± 2.9 日、シャワー浴の自立には 7.9 ± 3.5 日、靴下の着脱自立に 8.2 ± 4.5 日を要した。また、家事に関しては、項目として洗濯、調理、掃除項目があり、いずれも術後約 10 日以内に自立する患者が多かった。

【考察】

今回の研究により、人工股関節全置換術後患者が各日常生活動作を達成するまでの日数が明らかになった。具体的には、トイレ、更衣、シャワー浴、靴下の着脱の順で自立が達成される傾向にあり、このデータは、具体的な患者説明による共同意思決定の円滑化や早期社会復帰を図るうえで有益な情報となり得ると考える。今後は作業療法のこれらの日常生活動作への介入により、患者の早期退院に繋がる可能性がある。良好な医療記録は患者のニーズを包括的に満たすために不可欠であり、今回の結果はその点でも有用であった可能性がある。

【結語】

入院中の日常生活動作を達成するための目安となる日数が示された。今後は作業療法の介入にてこれらの日常生活動作が円滑に獲得できる介入研究が必要であると考えられる。この成果は、作業療法が THA 患者の早期社会復帰の一助になる可能性がある。